

# 放射線影響研究部：IARCセミナー

国際がん研究機関 (International Agency for Research on Cancer: IARC) より二名の研究者が来所し、セミナーをしていただくことになりました。

Schüz博士は放射線や電磁波などの健康影響について疫学的な側面から研究をすすめています。今回は、日本でプルトニウム内部被ばく事故がありその健康影響に注目が集められていることから、マヤークおよびテチャ川コホートにおける健康影響について講演していただきます。

Togawa博士は、放射線被ばく事故が起きた際の甲状腺モニタリングについて検討するため、IARCにおいて新たに立ち上げられたプロジェクトの概要を説明します。

どちらもタイムリーな演題であり、多数のご参加をお願いいたします。

2017年

8月18日 金 10:00-12:00

低線量影響実験棟3階【会議室】

## Radiation health effects on the Mayak/Techa River exposed cohorts

Dr. Joachim Schüz

(Section Head, Section of Environment and Radiation)



## A new project on thyroid screening recommendations in case of nuclear accidents

Dr. Kayo Togawa

(Postdoc, Section of Environment and Radiation)



国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

National Institutes for Quantum and Radiological Science and Technology

放射線医学総合研究所

(放射線医学研究開発部門)



お問い合わせ

放射線影響研究部 山田 裕

yamada.yutaka@qst.go.jp

電話043-206-4057 内線3299

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1